関西自然保護機構会報（18）61－66，1989

丹生・帝釈山系総合調査[1)2)]

木　村　忠　雄
（社団法人兵庫県自然保護協会神戸支部）

はじめに

神戸市内を東西に横たわる六甲山系，その北西にもう一つ並行して小六甲とも呼ばれる標高600ｍに満たない丹生・帝釈山系が連なっている。完全に公園化され年間740万人もの観光客やハイカーが訪れる六甲山と違い，神戸市民ですら丹生山の名前さえ知らない人が大勢いる位神戸に残された最後の『ミニ秘境』と呼ばれる静かな農村地帯に，最近なって相次いでゴルフ場の建設計画が発表され，更に数年前には人間環境都市宣言を高らかにうたいあげた神戸市がアマゴやハッチョウトンボが棲息しサギソウが咲く湿原や渓流を産業廃棄物の廃棄場所として埋め立ててしまった。

多くの文化人やハイカー達が中心となって開発にストップをかけようとして様々な方法で反対運動を繰り広げてきたが余り効果は見られないまま今日に至っている。

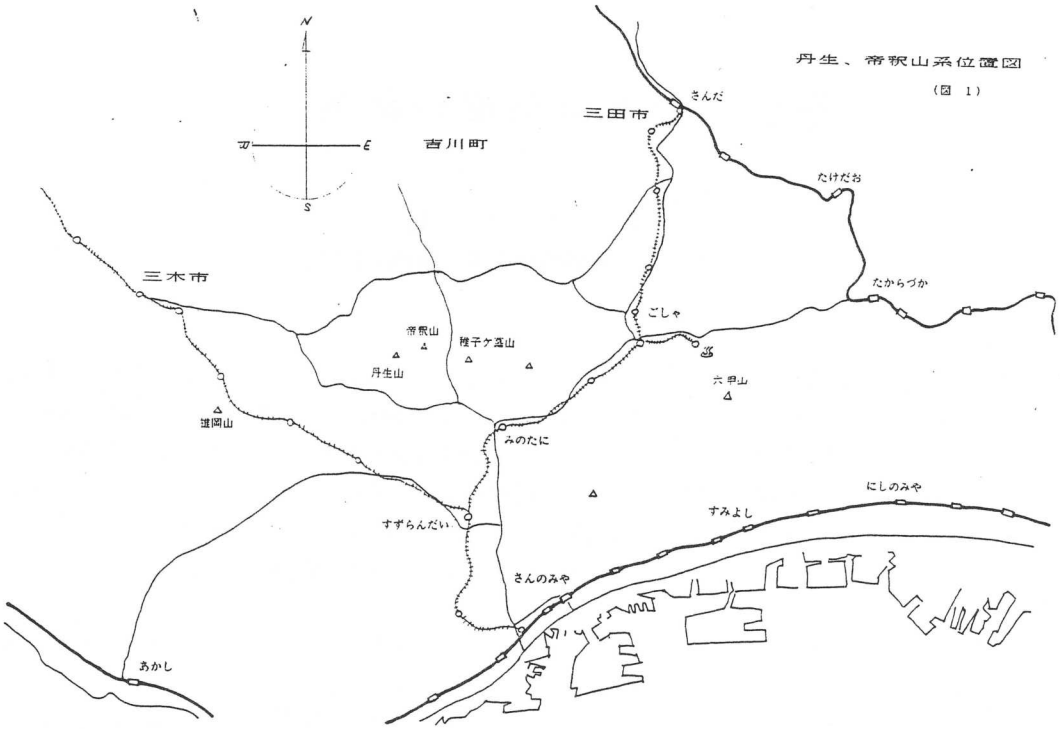
そこで，㈳兵庫県自然保護協会では神戸支部が中心となって，これ以上自然破壊が進行しない内に，短期間で丹生・帝釈山系の歴史・地質・動物・植物・昆虫などの各分野にわたり詳しい調査を行い次の世代に，＜昔，これ程素晴らしい自然がここにあった＞事を伝えると共に，自然保護運動に発展させたいと考え調査計画を発表したところ，マスコミ各社（神戸・朝日・読売・毎日・サンケイの各新聞，ＮＨＫラジオ・テレビ，雑誌等）によって大きく報道された。この報道により県下だけでなく県外からも自然愛好家達がこの調査に参加したいとの申し込みが相次ぎ，約70人のメンバーで昭和63年２月から本格的に調査活動を始めるに至った。

調査に参加しているメンバーは総て素人ばかりの集団で専門家は一人も含まれず，かって学生時代に生物クラブに所属していたり，趣味で自然観察や生物の生態写真を撮影している人達などで，職業も学生，サラリーマン，主婦，公務員，会社員，自営業，市会議員など様々で調査を始める前に調査部門のグループ編成を行なって，自分の得意とする分野の調査に乗り出した。

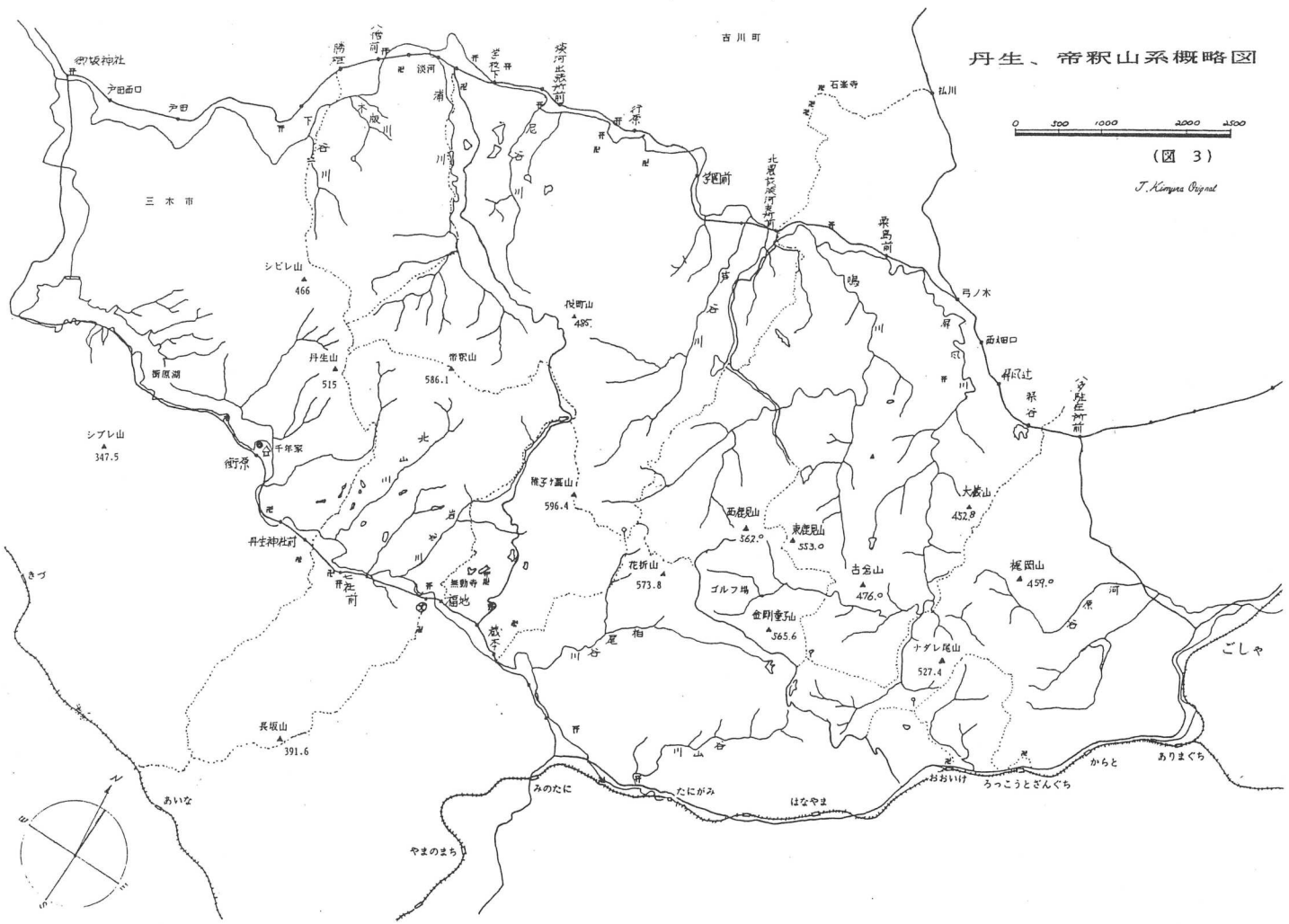
調査を続けるにつれて，最近では殆ど市街地では見られなくなった珍しい動植物が次々と見つかり，又貴重な種類の植物なども発見され，時折新聞やテレビなどで紹介されるにつれ，他の自然保護活動をしている団体と共に協力しながら調査活動や自然保護運動の輪を広げているが，時間，労力，費用等大きな制約の下で調査活動よりも，神戸市や大企業の開発のスピードが余りにも早いため次々と貴重な歴史的遺産や自然が破壊され姿を消しており調査活動に焦りを感じているのが現状です。

なお，ご参考までに昭和47年７月31日，全国に先駆けて神戸市議会で決議された「人間環境都市宣言」の全文をご紹介します。

1）関西自然保護機構業績第77号
2）この研究には関西自然保護機構の昭和63年度の研究助成金を使用した。


丹生、帝釈山系位置図
(図 1)
N
W
E
S
吉川町
三田市
さんだ
たけだお
三木市
たからづか
ごしゃ
帝釈山
丹生山
雄子ケ嵩山
六甲山
雄岡山
みのたに
にしのみや
すみよし
すずらんだい
さんのみや
あかし


丹生、帝釈山系概略図
(図 2)
吉川町
ゴルフ場
石楽寺
淡河
主要地方道 三木、三田線
国道428号
三木市
シビレ山
466
丹生山
515
帝釈山
586.1
神戸市
雄子ケ嵩山
596.4
花折山
572.3
ゴルフ場予定地
ナグレ尾山
527.1
長坂山
391.6
みのたに
たにがみ
はなやま
おおいけ
からと
ありまぐち
やまのまち
あいな
弓ノ木
ゴルフ場


丹生、帝釈山系概略図
0 500 1000 2000 3000
（図 3）
T. Kimura Original
古川町
三木市
伊坂神社
戸田西口
戸田
勝雲
八幡河
淡河
学校下
淡河出張所前
浦
下谷川
不成川
尼谷川
行者
学園前
北東部淡河渓谷
石峯寺
払川
飛鳥前
鳴谷川
弓ノ木
西畑口
畑辻
栄谷
多聞台前
シビレ山
466
丹生山
515
帝釈山
586.1
諏原湖
シブレ山
347.5
千年家
御所
北山川
役町山
485.
雛子ヶ嶽山
596.4
丹生神社前
社前
無動寺
福地
花折山
573.8
西鹿見山
562.0
東鹿見山
553.0
ゴルフ場
金剛童子山
365.6
古宮山
476.0
大岐山
432.8
堀田山
459.0
ナダレ尾山
527.4
尾相川谷
長坂山
391.6
あいな
みのたに
たにがみ
はなやま
おおいけ
うっこうとざんぐち
からと
ありまぐち
やまのまち
ごしゃ

人間環境都市宣言

緑の山，青い空，紺碧の海，そして太陽の輝く町。わたしたちの町「神戸」は，いついつまでもそんな町であってほしい。たしかに，わたし達が祖先から受けついだ神戸の町はすばらしい町であった。しかし，この町をとりまく空気や水，それは無限ではない。環境との調和に欠けた経済の発展と文明の進歩は，空気や水をよごし，わたしたちの町を住みにくいものにしようとしている。

わたしたちは，神戸の町を，平和と安全が守られ，自然と文化の融合した最も人間性ゆたかな町にしたい。そしてそれを，わたしたちの子孫に引きつぐべき義務がある。

1972年は，世界の環境元年といわれている。この時にあたり，私達は，あらゆる市民，市，事業者の総力を結集して，環境破壊の波を阻止し，わたしたちの共有財産である愛する郷土を「人間環境都市」として築きあげることを決意し，ここに神戸市民の名において宣言する。

地理概略

（位置）図1，2，3

神戸市北区及び兵庫県三木市の一部（約7000ha）神戸の中心街から車で10分，六甲山を縦断するトンネルを越えるといきなり茅葺きの民家が点在するこの丹生・帝釈山系の山麓の静かな農村地帯に到着する。（都心部より僅かな時間で豊かな自然に接する事が出来るのもあといつまでだろうか。）

（主な山）稚児墓山 596.4m　帝釈山 586.1m　花折山 573.8m　金剛童子山 565.6m　西鹿見山 562.0m　東鹿見山 553.0m　ナダレ尾山 527.4m　東ノ峰 516.0m　丹生山 515.0m

歴史・文化

瀬戸内海国立公園の一部である六甲山の北西は静かで緑豊かな田園地帯でもあり，ほぼ東西に連なる丹生・帝釈山系の南部，北部には6世紀頃より文化が栄えていた。硫化水銀，銀，鉄等が産出これらの地下資源の一部はつい最近まで掘り続けられていた。特に古代では硫化水銀（「丹」と呼ばれ「丹生山」の語源といわれている）は高貴薬として，又「朱」の染料としても金，銀以上に貴重な鉱物資源として大切に取り扱われていた。

丹生山南麓を東西に流れる山田川（加古川に連なる）の一帯が灘の酒造米となる稲作や野菜，花卉栽培の生産地でもある。

京都文化の影響も色濃く，神戸の飛鳥とも呼ばれ歴史の里でもある。中央の文化が色濃く流れ込んで大陸の文化が複合されて，この地方独特の文化が生まれ栄えていた。

主な文化財を挙げてみると，我国では最古の民家といわれる，衝原（つくはら）の「箱木千年家」（室町時代中期）六条八幡・三重の塔（室町時代）無動寺（4.8mの木造の大日如来座像「我国では2体しか無い」や他に4体の国指定の重要文化財の仏像が安置されている）等が挙げられるが，その他枚挙にいとまが無いくらい多くの文化財が方々に点在しており，良く注意していないと気付かず通り過ぎてしまうくらいで，かっての繁栄が想像できないほどで，静かな農村にこれほど多くの文化財が残されているのが信じられない程である。又これらの文化財が地元の住民や篤志家によって大切に保存されており，それらが簡単に見ることが出来るのが他の観光地と異なる所である。更には無形重要文化財に指定されている多くの民俗行事が現在まで受け継がれており，特に興味深いのは毎年10月10日，六条八幡神社の境内で執り行われる『やぶさめ』の

神事であろう，鎌倉の『やぶさめ』は余りにも有名で観光客も大勢集まり武士の武芸鍛練の成果を奉納するのが目的ではあるが，当地のは別名『うまかけ』とも呼ばれ秋，稲の刈り入れが終った後に今年の収穫のお礼と来年の豊作祈願のためで武芸の奉納とは全く異なり，殆ど観光客も訪れずに地元住民の方々の手でひっそりと古式豊かに執り行われるのが興味深い。

地質

六甲山に隣接しておりながら，地質は全く異なり有馬層群と呼ばれ流紋岩による堅い岩盤で形成されており，渓流部は滑り易い。一方丹生山南麓には凝灰岩の露出した部分が見られ，注意すると植物の化石が発見される。又，農家の庭先には一抱えもある木の化石が庭石として配置されている光景がみられる，いずれも近くの山で捨ってきたという事である。又，硫化水銀を含んだ『朱』に近い岩石がこの山系の所々で見受けられて鉱脈があると言うことが知られる。

昭和35年まで鉱山が営業を続けていたが，今でもその採掘跡が残されており，更に山麓の河原付近には江戸時代末期まで製鉄の為の熔鉱炉跡が残っており『たたら』と呼ばれる鉱石の焼けた残滓が今でも簡単に見付けられる。少し山に登りかつての鉱山の付近にはヘビノネゴザと呼ばれる鉱山特有のシダがその特徴のある姿で数多く自生しており昔の山師と呼ばれる人達はこのシダを鉱脈発見の手掛かりとしこの土地にやって来たのであろう。

動物

ニホンザルが神戸電鉄「大池」付近で発見されているがこれは野生のニホンザルかどうか疑問である。大型の野生獣はイノシシがあげられ農作物の害獣として嫌われている。哺乳類ではキツネ，タヌキ，ノウサギ，イタチ，テン，モグラ，ヒミズ，等比較的小型のもので山の規模からみてあまり大型の種は棲息していないと思われる。

今の所調査対象は野鳥に主力をおいており，他の動物の調査にまで手が回らないのが現状である。

野鳥は現在までに約60種が確認されており，野鳥グループでは100種位は確認できるのではないかとリーダー以下少数のメンバーで精力的に調査活動を行い頑張っている。主としてオシドリ，マガモ，等の水鳥や，キジ，ヤマドリ，ヤマセミ，その他猛禽類が多く観察できる。

魚類ではアマゴが確認されている。僅か標高500m位の低山でアマゴが棲息しているのは珍しいと言える。爬虫類も専門的に調査していないが，マムシ，シマヘビ，アオダイショウ，ヤマカガシ等数多く観察でき自然に人手が加えられていないと言う証拠であろうか。

植物

今までこの地方の植生の調査がいくつかのグループで行われてきたが発表されていないようである。シダ・コケのグループを除いて約800種類が確認されているがまだまだ新しい種類の発見が見られる。あまり人の入らない場所には，さらに多くの種類が確認されると思われる。更には公害に侵食されていないため，公害に弱いと言われる地衣類のウメノキゴケ類が方々に見られ，苔類も豊富であり他の場所では殆ど見られないヒノキゴケの群落が大は50㎡位から小さなコロニーに至るまで沢筋や湿地に数多く見られる。湿地が山頂近くに数多く散在し，サギソウ，ミミカキグサ類，サワシロギク，カキランの群落なども見られる。興味深いのはテイショウソウは帝釈山を中心に群落が集中しており，また屏風谷にのみ群生するダイモンジソウはすぐ隣の鳴川谷には

全く見られないのは不思議である。10月の花の季節には渓谷の岩が白くみえる程数多くの花が咲き壮観である。しかしゴルフ場の工事が始まるとこの渓谷も土砂で埋められダイモンジソウも全滅してしまうので，他の適当な場所への移植をも考えなければと思っている。

特筆すべきは，昨年５月，標高500ｍに満たない山上の湿地でミズバショウが発見されたことである。緯度，高度から見てもかなり興味深いと思われる。そのほかおなじ湿地で関西地方では記録されていない種類が発見されているが，詳細は別の機会に発表したい。

キノコの調査も順調に進んでいる。山の規模が比較的調査に手頃であり，種類が豊富で丹念に調査が出来れば興味深いデータが得られると思う。年によって発生するキノコの種類が変わっているが原因はまだ解明されていない。今年はタマシロオニタケが多数発生した。秋にはサクラシメジが多く見られたが，サクラシメジが多い年にはムラサキシメジが余り見られないが，どのような相関関係があるのか今後の研究課題である。いずれにしてもあまり人が入っておらず自然がそのまま残されているので極めて多くのキノコの種類，固体数が確認できるので今後が楽しみである。調査に入る度におなじコースでも季節がかわる毎に新しい発見があり調査活動に励みが出て来る。一例を上げると，猛毒のクロタマゴテングタケや，食用キノコの王様と言われるシャカシメジ，コウタケ，ホンシメジ，マッタケ等が多い。

昆虫

種類が多く全般に亙って調査することは人手，時間共に無いので，つぎの分野の調査から始めた。

蝶，甲虫，トンボの調査から始めた。一々種類を列挙することは次回に回すとして，特筆すべき種のみを上げる。

蝶　オオムラサキ，スミナガシ（タテハチョウ科）ウスイロコノマチョウ（ヒカゲチョウ科）ウラキンシジミ（シジミチョウ科）いずれも近年都市近郊では殆ど見られなくなった蝶であり以前はギフチョウが見られた記録が残されていたが食草のカンアオイが発見されておらず今後に期待はもてないと言えそうである。

甲虫では神戸の町の特産種とも言えるキベリハムシ（ハムシ科）が棲息している筈であるがまだ発見されていないのは淋しい。近郊の「山の街」には以前多く棲息していたが，その生息地が今は住宅地に変わってしまい絶滅してしまったのではないかと心配している。

トンボ　至るところの灌漑用の溜池や短いながらの川が多くあり水棲昆虫やトンボは極めて固体数が多いが種類はあまり多くないようだ。とりわけ急速に姿を消しつつあるハッチョウトンボは山頂近くの極く限られた湿地に発見されている。成虫の発生時期は６月中旬から９月までで，その愛らしい姿が見られる。近ごろでは自然破壊のバロメーターにされている昆虫の一つに数えられているようである。

極めて大雑把に丹生・帝釈山系の生物についての調査の過程を報告しましたが本格的な調査は今年からと考えております。何分開発の進行の方が早く，それに引き換え余りにも微力な我々の力では開発を阻止することは到底実現しそうもありませんが，おなじ思いの他の団体と協力しながらの自然保護運動と丹生・帝釈山系の調査活動はどうしても短期間の間に成果を上げたいと調査活動に参加した市民グループは頑張っております。お気付きの点があればご一報下されば幸いです。